

①重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実 【学習】 【各教科】		b 自主的な学習態度の育成 【学習】 【各学年】	
②重点課題	1 授業力向上への組織的取り組みと学力各層への指導の充実		2 自主的な学習計画の作成と自学自習時間の確保	
③現状	・学力の多層化が顕著である。 ・前後期制，文理混合クラス，習熟度別授業等，様々な状況において，生徒を適切に指導する必要がある。 ・新学習指導要領完成年度に向けて，組織的に対応する必要がある。		・全体的に学習習慣の確立に向けて着実に取り組もうとしている様子が見られるが，学習時間の確保の仕方や，自分に合った学習方法を模索している段階までの生徒も多い。 ・日々の学習については，予習や復習など最低限の学習を確保できている生徒が多い。一方，自らの力を伸ばすために目標を定め，いつまでにどんなことをやっていけばいいかを考えながら，自分の学びをプロデュースする力は不足している。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①各学力層に対応するため，日々の授業，習熟度別授業，各種講座等を綿密かつ計画的に行う。特に上位層への指導を充実させる。【考】	A	①いつ，どこで，どんな教科をやるか，学習のルーティーンを，通学時間や部活動などそれぞれの状況に応じて，平日，休日，長期休業中に確立させる。【目】	B
	②学習連絡会，教科会等で，本校の学習に関する様々な問題点を検討，改善するなど，組織的に対応する。【発】	A	②平日「学年＋2」時間，休日「学年＋5」時間の学習時間を確保させる。【基】	C
	③長期的視野で授業カリキュラムを捉え，生徒の様々な選択科目に，適切に対応する準備を行う。【基】	B	③学習活動における自己分析と，個別面談の充実により，自律した学習スタイルの確立を目指させる。【目】	A
⑤具体的な取り組み	①生徒の主体的な学びを喚起するため，各教科で日々の授業や各種講座について綿密かつ計画的な話し合いを行い，充実を図る。 ②職員室や準備室で常に話し合いを行うとともに，各種研究会に積極的に参加し事例研究を行うことにより，生徒の知的好奇心を刺激し，自ら学びたいと思えるような教科指導を行う。 ②各種研究会の報告や ICT 機器の研修等を，様々な場面で実施する。 ③担任との面談では，3年間を見通した科目選択を指導し，習熟度別授業では，生徒の理解度に応じてきめ細かく指導していく。 ③特に配慮が必要な生徒には，情報を学年・教科で共有し，教科担任面談等の個別指導で，早期から丁寧に対応する。		①LHR 等を活用して学習計画をしっかりと意識させるとともに，定期的に学年集会開いたり文書を出したりして，内発的動機付けを図り，生徒の学習に向かう意欲を高める。（特に長期休業中） ②様々な資料を参考にして学習計画の例を示し，自分で計画を立て実践できるよう支援する。 ②学習時間不足の生徒には，HR 担任と教科担任が連携して具体的な取り組みを提示し話し合い，自主的に学習時間が確保できるよう導いていく。 ③定期・実力テスト等の分析を充実させ，各教科における指導法を検討しながら，授業や面談で適切な指導・助言を行う。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し，()は 5 わから ないの割合を表す < >・・・昨年度データ	①栃高評価⑤（習熟度別授業〔数学〕）では生徒 87(3)<85(4)>保護者 82(14)<77(17)>が適切と回答，学力各層に応じた指導と，上位層への適切なアプローチができた。 ①授業アンケートにおける授業の満足度は，43 科目中 31 科目で 9 割以上，6 科目で 8 割以上が満足している。 ①10 月実施の授業公開については，アンケートで高評価が得られた。 ②観点別評価について拡大学習連絡会等で組織的に対応できた。 ③科目選択については，面談等で適切に指導できている。シラバスは現在作成中である。		①栃高評価①（面談による学習アドバイス）では生徒 92(3)<92(2)>保護者 91(4)<93(3)>，栃高評価③（長期休業期間の学習アドバイス）では生徒 86(2)<86(2)>保護者 82(10)<84(9)>と良好であるが，課題の提出状況等から，自主性の育成に課題が残る。 ②第 2 回学習実態調査の平日の平均学習時間は不足しており，3 年 270 分(+21)，2 年 130 分(-14)，1 年 116 分(-19)であった。（()内は過去 3 年間の平均と比較した数字） ③各学年，丁寧な面談，時期に応じた学年集会等で学習に向かう意欲を高めてきた。栃高評価⑦（自ら学ぶ取り組みへの適切な支援）全学年生徒の平均が 92%→87%→81%と，年々低下している。	
⑦学校関係者評価	・高評価を得ている習熟度別授業のさらなる高度化について，今後も継続して取り組んでいただきたい。また，新たに開始される個別最適化を狙いとした学校設定科目ですべての学力層に注力する仕組みの構築が望まれる。		・学習時間の減少への早期対応が望まれる。 ・本校で学ぶ意義について考える機会を設けるなど，学びに対する意識づけが必要である。 ・シラバスの効果的な活用を見据えた内容の検討が望まれる。	
⑧次年度への課題	・単位制の導入に伴い，選択科目が多くなっているため，生徒への説明を詳しく，適切に対応していきたい。 ・習熟度別授業と学習連絡会は，継続して実施していく。		・学習時間の確保ができるよう，全職員で生徒への声掛けを実施していきたい。 ・自主性の育成を目指し，頻繁に打ち合わせを行い，様々な取り組みを行っていきたい。	

① 重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現 【進路】 【各教科】 【各学年】			
② 重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践とノウハウの継承	4 模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供		
③ 現状	- 全体計画を進路指導部で作成し、進路講演会や学問探究講義、卒業生との懇談会等を実施し、キャリア教育を推進するとともに、内発的動機、学習意欲の向上を目指している。 - 生徒への個別対応が重要性を増しており、時宜を得た効果的な生徒個人面談を実施するために、三年間を見通した面談の内容について共通理解を図る必要がある。		- 校内模試結果の分析による生徒の学習状況の把握や、進路指導委員会に向けての事前検討会を充実させることにより、進路指導部と担任間、および担任と生徒間の進路に関する具体的な情報のやりとりをさらに充実させる必要がある。 - 進路学習室や大掲示板の環境整備や、進路委員の活動を通して、1、2年生に対する情報提供もさらに充実させる必要がある。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①土曜講座の実施形態の工夫、内容の充実とともに、保護者への内容の周知を図る。 展	B	①校内模試データから生徒の学力の状況を把握し、また、大学研究を入念に行うことにより、チューターの担任へのサポートが万全になるよう努める。 考	B
	②時機に応じた生徒個人面談の内容充実により、LHR 以外の場合でも進路意識・学習意欲の向上を図る。 協	B	②個別大学模試の分析、分析報告会の情報の共有、入試研究をもとに生徒の進路実現に向けた指導を行う。 課	B
	③三年間を見通した進路指導のノウハウ継承を図り、特に上位層への低学年からの働きかけを強化する。 自	B	③「高大接続改革」に関して、新入試改革への対策、その効果的取組が学校全体で着実に進められるよう努める。 情	B
⑤具体的な取り組み	①生徒の学力向上のために、土曜講座の実施形態(全員講座と希望講座、層別指導の組み合わせ等)を工夫し、実態とニーズに合わせて計画・実施し、充実させるとともに、その内容を外部へも発信していく。 ②これまでの蓄積(LHR 資料、学年独自の進路関係行事の記録、長期休業前指導の資料、各資料や行事の意義を明文化した資料等)を活用し、LHR 以外にも積極的に進路学習の機会を設定できるようにする。 ②多くの教員との面談を通して自己理解を深めるとともに、キャリアパスポートなどのキャリア教育の各種取組により進路意識を高揚させ、学習意欲の向上につなげていく。 ③三年間を見通した進路指導計画を教員と生徒が共有する場を多く設定し、生徒に対し有効な働きかけを積極的に行う。		①校内模試の分析を丁寧に行い、また、各種研究会や大学説明会で得た情報を共有し、事前検討会を充実させる。そこで得た情報を、チューター制度を活用し生徒の進路実現と教職員の研修に生かす。 ②個別大学模試の分析や追跡調査、業者の分析報告会の情報を共有しそれをもとに生徒の進路希望実現に向けた指導を行う。 ②クラス担任からの入試制度等の進路情報の伝達や、進路学習室・大掲示板の活用や各クラス進路委員の活動を通しての恒常的な情報発信など、情報提供環境を充実させる。 ②低学年からの進路情報提供の一環として「大学入試問題研究」を充実させ分析結果を校内実力テスト・校内模試の作問につなげることで、上位層の指導に活かす。 ③「高大接続改革」に関して全職員で情報を共有し、各学年の取組に対し、学校全体での支援が行えるようにする。	
⑥評価 *栃高評価満足度 %は 1 そう思う+2 大体そう思う の割合を表し、()は 5 わからないの割合を表す < >…昨年度データ	①栃高評価②(土曜講座の充実)では、生徒 77(4)<76(5)>で昨年度と同様低い水準となった。保護者は 73(20)<76(17)>と前年比で低くなった。講座の工夫と、外部への発信の充実が必要かと考える。 ②栃高評価④(3 年間を見通した進路指導)では、生徒 89(2)<87(4)>と肯定的評価の割合が微増した。引き続き、LHR 以外でも学年集会・進路講演会・面談等で進路意識の向上を図っていききたい。 ③学年担任団の打ち合わせ等で定期的に進路指導について検討・議論することができた。面談週間以外の面談を行う等、生徒への働きかけを積極的に行った。		①進路指導委員会では個々の生徒に応じた「ぶれさせない」指導や助言をさらに充実させる必要がある。大学研究は入念に行うことができ、3 年担任に多くの情報を提供することができた。 ②栃高評価⑥(進路に関する情報提供)では、生徒 90(2)<86(3)>、保護者 86(4)<88(5)>と、例年安定している。今後も、「大学入試問題研究集録」の内容の充実や、大学入試分析報告会の情報共有など、提供する進路情報の充実に努める。 ③高大接続改革については、新課程入試に関する情報収集を入念に行い、対策を進めてきた。今後その情報を積極的に発信していく。	
⑦学校関係者 評価	- 土曜講座の 3 者の評価が乖離している原因について分析し、講座内容の再構築や実施上の工夫が必要である。 - どの項目も 2 年連続 B 評価である。達成目標が適切であるか、検討が必要である。		「目標をぶれさせない」ことも重要であるが、その目標の妥当性についての評価も必要である。 - 生徒のニーズを的確にとらえて、進路指導の仕組みに反映できるよう今後も検討していただきたい。	
⑧次年度への 課題	- 土曜講座の実施形態(全員講座と希望講座、層別指導等)、内容や難易度を、実態とニーズに合わせる。また実施計画を外部へ発信していく。 - 学年独自の進路行事の引継ぎを密に行う。 - 本校独自の進路指導のノウハウ伝承とその強化に努める。		- 大学情報(入試制度・学部改組や新学部の内容)収集を強化する。 - 進路指導委員会を通して、生徒への面談の質の向上に努める。 - 大学入試問題の研究のさらなる充実を図る。 - 新課程入試に向けての対策の強化に努める。	

①重点目標	d 主体的な学習活動による健全な教養の醸成 【図書館】	e 健康的な生活のための生活習慣の確立 【保健厚生】
②重点課題	5 図書館利用の質的な向上をめざした支援体制の整備	6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成
③現状	- 平成26年度には年間貸出数5,000冊越の記録を達成したが、その後は量から質の向上へと読書の重点をシフトし、年間貸出数は令和3年度は約1,500冊、令和4年度は約1,200冊であった。 - 生徒の図書委員会を中心に、推薦図書案内、読書会開催、ビブリオバトル大会参加など、読書推進活動は比較的盛んである。 - 情報センターとしての新たな使命を踏まえ、論文検索用端末が新規導入されている。また運用システムの更新も進行中である。	- 運動に苦手意識があり、体を動かす習慣のない生徒も多く、運動習慣と心身の健康との関係を理解していない生徒も多い。 - 健康的な生活習慣について、インターネット等の誤った情報をもとに意思決定・行動選択している生徒がいる。 - 感染症に対する正しい知識を身に付けておらず、適切な判断ができていない生徒がいる。
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①思考力や教養を高める目的で、授業や図書委員会等を活用した読書推進活動のさらなる活性化。【発】 【協】 【考】	①週3日以上運動（部活動含）を実践する生徒80% 【展】
	②年間貸出数1,500冊以上、年間貸出数10冊以上30名。【基】 【課】 【自】	②欠食（特に朝食）や睡眠不足等が原因の体調不良を訴え、保健室を利用する生徒が月間平均3名以下 【基】
	③GIGAスクール構想によるICT教育の推進に資する、情報センターとしての支援体制の充実。【情】 【展】 【課】	③国や県の方針を踏まえた、健康に影響し得る正しい知識の習得と適切な行動の実施 【自】 【課】
⑤具体的な取り組み	①図書委員を中心に、県「高校生読書コンシェルジュ」事業とも連携し、よりいっそう多角的な図書館利用を生徒に促す。 ②教科指導との連携を図り、印刷物、ホームページ、イベント、展示の工夫等と組み合わせ、利用者の読書の質を維持しつつ、図書館利用者数の向上を図る。 ③公立高校図書館としての旧来の発想にとらわれず、柔軟な発想から、生徒の探究活動を支援できる体制を整備する。	①授業を通じて、正しい運動、個に応じた運動と、健康状態・健康課題を考えさせる。また、部活動や体育的行事などでも運動の効果を実感させ、運動の習慣化の大切さについて理解させる。 ②身近な健康課題について、指導するとともに「保健だより」等で情報を提供する。また、保健委員会を中心に、生徒が主体性を持って啓発活動を実施できるような環境を整える。 ③国や県教育委員会から通達される、生徒の健康に関する留意事項等を、体育及び保健の授業において適切に伝え、生徒が自ら健康意識を向上できるよう指導する。
⑥評価 *栃高評価満足度％は1 と思う+2 大抵 と思う の割合を表し、() は 5 わからないの割合を表す < > ……昨年度データ	①今年度は新たに「高校生読書コンシェルジュ」研修への参加希望者がなく、またすでに資格を持っているのは3年生であったため、コンシェルジュによる図書利用の案内が十分にできなかった。 ②教科との連携、案内の充実がうまく図れず、本年度の図書貸出数は1034冊、年間貸し出し数10冊以上の生徒は19名であった。 ③生徒の学習環境としての満足度は、栃高評価⑦（自ら学ぶための支援）生徒81(2)<87(3)>保護者88(5)<89(6)>、栃高評価⑩（学習のための施設設備）生徒88(5)<89(6)>保護者76(3)<75(2)>と若干減少も見られるが、ほぼ例年並みの高水準を維持している。	①体育的・学校行事や部活動を通して、その行事に対応した運動等を実施したり、専門とする競技を追求する様子は大きいのがあった。通年での生徒の自主的な活動も概ね良好であった。 ②保健室から発出される「保健だより」やリーフレット等について、発行時期がやや遅れることがあった。また、欠食や睡眠不足等が原因の体調不良により、保健室を利用する生徒は月間平均5名前後であった。 ③栃高評価⑧（健康的な生活のための指導）生徒76(3)<75(3)>保護者83(8)<86(6)>生徒による評価が前年度から約1ポイント増加した。耐久レースの練習等を利用し、生徒に自分自身の健康状態を整える指導ができた。一方で、保護者の評価は約3ポイント減少した。
⑦学校関係者評価	・昨年度から目標を500冊減らしても評価はBである。地道な指導が必要ではないか。 ・図書館利用や読書の意義を生徒にうまく伝える工夫が必要である。 ・自費購入図書や電子書籍なども含めて課題を設定する必要がある。	・健康の大切さを実感を伴って理解するような取り組みが望まれる。 ・生活習慣の維持、改善をサポートする取り組みが必要である。 ・3者の評価が乖離している原因について分析し、生徒のニーズに応える取り組みが必要である。
⑧次年度への課題	情報教育係と連携し、GIGAタブレット経由による生徒への情報提供の実現を図る。継続して生徒の読書体験の質・量の向上を図るとともに、読書を通して生徒同士が交流を図れるような新たな機会を設ける。	・保健厚生部、保健委員会との連携を密にするとともに、教員からの指導と生徒主体の活動とのバランスを見直す。 ・日常生活全般で活かせる健康に関する情報の提供や、指導が必要である。

①重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導 【特活】 【教務】			
②重点課題	7 全生徒で計画的に取り組む充実した学校祭の企画と実施	8 学校行事、部活動、体験活動に全力的に取り組むための環境整備		
③現状	・生徒が組織する学校祭実行委員会と各クラスの文化委員が中心になり、全員参加による学校祭を企画している。 ・昨年度は事前登録制という条件付きながら、多くのお客様をお迎えすることができた。今年度はより多くのお客様をお迎えすることができるのではないかと期待している。 ・社会情勢を鑑みつつ感染症対策を徹底した上で、更なる質の向上を目指す取り組みが必要である。 ・準備段階において、物品の使用に関する指導が必要である。		・部活動、移動教室、外国人との交歓会、ボストン海外研修、県庁堀清掃ボランティア、生徒会リーダー研修会といった多くの行事や体験活動に積極的である。県庁堀清掃では、栃木市役所との協力関係を構築し、実施体制が確立されている。 ・文武両道を掲げ多くの生徒が学校生活を送っているが、進路実現のための学習時間の確保と、部活動や生徒会活動等の様々な活動の両立をより一層促していく必要がある。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①来場者にご満足いただけるように、クラス企画における質の向上に向けた実行委員会と文化委員及び関係職員との連携を強化する。【考】 <u>協</u> 【課】	A	①年間を通して部活動加入率 80%を達成する。 <u>展</u> 【自】 <u>課</u>	B
	②来場者に安心していただける一般公開実施のために、安全策について生徒の創意を引き出すとともに、生徒とともに考えながら様々な工夫を講じ、臨機に対応する。 <u>課</u> 【展】 <u>発</u>	A	②移動教室、ボストン海外研修、リーダー研修等の行事を通して、生徒のリーダーシップ・フォロワーシップの育成を図り、且つその生徒の存在が周囲への良い波及効果を生み出せるよう、指導内容の質的向上を目指す。 <u>自</u> 【協】 <u>情</u>	B
			③耐久レースの完走率 90%を達成する。 <u>展</u> 【自】 <u>課</u>	A
⑤具体的な取り組み	①実行委員会を定例化し、生徒会係職員を中心として、職員と実行委員、文化委員の連携を強化する。 ①クラス企画が準備段階から計画的に取組めるよう文化委員と実行委員との連携を密にするとともに、文化委員と担任との関わりを充実させる。 ②県内外の他校の様子や各種イベントでの感染症対策の情報を収集し、実行委員会の生徒と共有する。 ②実行委員会内審局の生徒との情報共有を丁寧にし、クラス企画の進捗状況の把握と指導助言をすることで、質の向上を目指す。また、物品の使用に関する規則を徹底する。		①特別活動全般において、その意義を各クラスにおいて指導し、事前指導・研修の機会を設け、参加生徒がそれぞれ課題意識を明確にして活動に臨めるようにする。 ①年度初めの部活動加入率の調査と、中間及び年度末の時点での退部状況の調査を実施するとともに退部者の実態把握に努める。 ①部活動と学業の両立支援の通知を配付し、生徒や保護者に周知するとともに、部活動優先日（金曜日）を徹底する。 ②移動教室やリーダー研修では、生徒主体での行動が出来るように事前の準備を丁寧に行い、内容の充実を図る。 ③耐久レースに参加することの意義を考えさせるとともに、完走の実現に向けた日々の鍛錬の充実を図る。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し、()は 5 わから ないの割合を表す < >・・・昨年度データ	①生徒会担当教員の強力なリーダーシップの下、各部局・委員会・係の全般にわたって、概ね滞りなく実施することができた。ただし、生徒の自主性育成の観点から、どこまで教員が介入し、どこから生徒に任せるかの線引きが継続課題である。 ②栃高評価⑩（学校祭の内容充実）生徒 95(1)<93(2)>保護者 94(4)<93(5)>今年度は制限なしの一般公開となり、多数の方に御来校いただき、生徒・保護者ともに高い満足度であった。感染症対策については、来年度以降も万全を期す必要がある。		①部活動加入率は、年度当初が 80.5%、12 月末では 76.3%であり、今年度も 80%を維持することができなかった。 ②ボストン研修は旅程中のトラブルはあったものの、無事実施できた。ただし、費用面も含め、課題もある。 リーダー研修会は、今年度も宿泊なしで実施した。生徒会本部役員を中心に研修内容の工夫をし、成果をあげることができた。 移動教室では生徒の自律性を育成することができた。 ③耐久レースの完走率は 97.8%であった。目標には届かなかったが、体育科の指導により、高い完走率を記録することができた。	
⑦学校関係者評価	・栃高祭は高い評価を維持している。栃高祭を材料に、本校が勉強と教科外活動のどちらにも全力を尽くす学校であることをアピールしていく機会を捉えてほしい。 ・リーダー教育との結びつきを意識した指導が望まれる。		・耐久レースに関する達成目標に、安全なレースの運行に関する項目を加えても良いのではないかな。 ・本校での生活リズムを維持するために、学校行事を利用した指導の展開が望まれる。	
⑧次年度への課題	・生徒の自主性を尊重する栃高祭の運営と、その指導・支援体制の確立に尽力する。 ・安心安全な栃高祭を標榜し、引き続き感染症対策に万全を期す。		・生徒の生活の充実や学校の活性化のため、高い部活動加入率を実現。 ・耐久レースの意義を考えさせ、生徒の発奮を促し、学校全体として高い完走率を実現。	

①重点目標	g 規範意識と社会性の向上			【生徒指導】
②重点課題	9 社会生活における法の遵守とマナーの向上		10 校内生活における規範意識の向上と望ましい人間関係の構築	
③現状	・各教科やHR・学校行事等において、生徒たちが安全な交通社会の主体となる指導を実践している。 ・学校生活において生徒心得等諸規定を遵守する態度を育成し、そのことが社会のルールを守る態度の育成や品位ある言動につながることを理解させる生徒指導を実践している。		・生徒一人ひとりに自己肯定感や達成感を与えると共に思いやりの心や規範意識を高め、豊かな人間性や社会性を育てる指導を実践している。 ・規範意識の向上や生徒心得遵守に関する指導については全職員共通理解に基づき、その時、その場での指導を実践している。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成 C：達成できなかった。	①交通事故発生ゼロを目指す。基	C	①いじめ解消100%を目指し、早期に発見し、組織的に対応・解決する。展	A
	②登下校時の苦情がなくなることを目指す。協	A	②スマートフォン等の規程違反生徒数昨年比80%を目指す。考	B
	③頭髪指導数、昨年比80%を目指す。自	B	③教育相談など支援が必要な生徒の早期発見と早期対応に努める。情	B
⑤具体的な取り組み	①交通事故の防止については、生徒たちが、被害者及び加害者にもならないことを目指し、時間的な余裕が持てるような生活習慣を指導し安全な登下校指導、HRでの注意喚起など、教育活動全体を通してルールの遵守を指導する。 ②教職員、生徒会交通委員やPTAが街頭指導等を含む交通指導を行い、他の模範となるような行動を目指させる。 ③5分前行動を授業はもとより学校生活全般からできるようHR・様々な場面で指導する。また、担任・部活動顧問と連携し、頭髪・服装等の注意を促し、品位ある栃高生となれるよう指導する。		①生徒同士がお互いの特性を認め合い好ましい人間関係を構築し、いじめが起こりにくい集団づくりの指導をする。 ②スマートフォン等使用規定や校内規定の遵守については、内面的な自覚を促し、自主的にマナーの向上に努めるよう努力する。また、情報モラル講話を実施し、SNS等への注意を促す。 ③定期的に学年主任、各部長間で不適応傾向の生徒について情報交換を行い、職員間での情報共有と迅速な対応に努めケース会議を迅速に開く。必要に応じてカウンセリングを有効に活用する。「生活アンケート」や「QUテスト」の実施とその結果の効果的な活用により、いじめや学級集団の状況把握に努める。	
⑥評価 *栃高評価満足度％は1 と思う+2 大体 と思う の割合を表し、()は 5 わからないの割合を表す < >…昨年度データ	①栃高評価⑫（交通ルールの遵守やマナーの向上）生徒82(3)<80(4)>保護者81(13)<83(12)>交通事故発生件数3件(昨年度比-4件)昨年度より-4件と交通事故は減少したが、残念ながら今年度も1件重大事故があった。幸いにも死亡事故にはならなかったが、非常に危険な事故であった。次年度も自転車乗車中のヘルメット着用を推進し、保健の授業や交通安全講話、ホームルームでの注意喚起など、教育活動全体を通して更に指導する必要がある。 ②交通関係のマナーの苦情0件(昨年度比-2件)職員、生徒による街頭指導を予定通り実施(4回)した。またPTA合同の通学路指導を実施(2回)した。 ③朝の立哨指導やSHRで指導をすることができた。		①いじめ認知件数4件(昨年度比-2件)「生活アンケート」から3件・部活から1件確認されたが、担任・部顧問・学年主任の連携により早期に対処することができた。 ②栃高評価⑬(生徒の規範意識を高めるための指導)生徒85(3)<82(4)>保護者86(9)<88(9)>栃高評価⑭(携帯電話等のルール遵守と情報モラルの向上)生徒78(3)<75(6)>保護者89(7)<88(6)>携帯電話等規定違反24名指導(昨年度比±0件)放課後等、気が緩み使用してしまったケースがほとんどである。 ③栃高評価⑨(悩み等の相談体制の整備)生徒78(8)<75(7)>保護者78(14)<81(13)>「生活アンケート」や「QUテスト」を実施し、その検討会も実施した。また、主任会議等を利用し、各学年間との連携もしながら、その都度、ケース会議を実施した。その効果的な活用により、いじめや学級集団の状況把握を早期に把握できた。	
⑦学校関係者評価	・交通事故防止のための交通マナーや安全に関する講話などの回数増と内容の充実が望まれる。 ・次年度はヘルメットの着用に関する達成目標の設定があっても良いのではないか。		・いじめに関して2年連続でA評価であるため、達成目標を「いじめ解消」から「いじめ予防」というより積極的な目標に変更することも検討してほしい。 ・生徒指導に関する事項は生徒の主体的行動を育成することが重要。	
⑧次年度への課題	・基本的生活習慣の確立を促すべく、生徒が自らの行動を考える機会を設定し、学校内にて5分前行動を徹底させる。		・規範意識の向上のために生徒が主体的に考え、行動できるよう授業、学校行事、学校生活を通じ指導を徹底していく。	

①重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み【保健厚生】	i 広報活動の充実【渉外】【教務】
②重点課題	11 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活環境の改善	12 家庭・中学校・地域社会への積極的な広報活動の展開
③現状	・清掃や教室周辺（特にロッカー上）の整頓について、時期やクラスによって不十分な場合がある。特にテスト終了後テキスト等が散乱するケースがある。 ・「全員清掃」の徹底が不十分である。 ・可燃ゴミと不燃ゴミとの分別回収は概ね良好であるが、故紙の再資源化への意識が不十分である。	・「PTA だより」を年2回発行している。 ・PTA 評議員会を年4回開催している。 ・PTA 総会、クラス懇談会、PTA 支部会、学年研修会において進路・学習・生徒指導等の取組や現状についての情報を提供している。 ・学校案内などのリーフレットは充実してきたが、中学校訪問の形態など、再考していく必要がある。 ・HP の更新が特定の行事や一部の部活動になってしまっており、学校全体の発信が不十分である。
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①教室周辺の清掃を徹底し、特にテスト終了後のロッカーの上を整頓し、私物散乱等の指摘をゼロにする。自 査	①「PTA だより」の内容を再検討するとともに PTA 関連行事の開催方法を見直し、情報提供の充実を図る。B
	②「全員清掃」の意義を職員や生徒に理解させるとともに、テスト期間を含め、どの時期においても「全員清掃」を徹底する。考 査	②一日体験学習や中学校訪問の内容等を充実させるとともに、本校の広報活動の改善につながるデータを得る。B
	③リサイクル活動を通してゴミの分別を推進し、故紙の回収量を月平均 1,000 kg 以上とする。考	③定期的に HP の更新状況を係で点検し、時期を逸しない更新を維持する。B
⑤具体的な取り組み	①環境美化委員を中心に、定期テスト後に教室周辺の学習環境をチェックする。 ②環境美化委員から、清掃についてのルールの確認や「全員清掃」の意義について周知する。 ③ゴミの分別と故紙回収を推進するため、分別等の表示や掲示を工夫し、再資源化についての意識を高めさせ、古紙回収の量を増加させる。	①「PTA だより」に校内の様子をより多く掲載できるよう検討する。 ①感染症対策に配慮しながら、PTA 行事の企画・運営内容を精査し、その充実に取り組む。 ②スライドや動画の適切な更新・改善、ポスターの作成などを行う。 ②一日体験学習や中学校訪問の申し込みを促す目的の連絡等を積極的に行う。 ③放課後の自習の様子や部活動の練習の様子なども発信できるような方法を検討する。
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体そう思う の割合を表し、() は 5 わからないの割合を表す < > …昨年度データ	①栃高評価⑮（環境美化、ゴミ減量化、リサイクル運動の推進）生徒 69(6)<67(7)>保護者 72(20)<73(21)>生徒による評価が前年度から約 2 ポイント増加したものの、60%台を抜け出せずにいる。環境美化への適切な指導改善が必要である。 ②「全員清掃」についての呼びかけは昨年度より良好であったが、まだまだ徹底できておらず、課題が残った。 ③ゴミの分別は、概ね良好であった。しかし、ペットボトルの分別（ラベル、キャップ含）や、紙ごみとプラごみの分別等に問題があった時期（主に夏場）があった。古紙の回収量は月平均で 793.17 kg であり、目標値には至らなかった。	・栃高評価⑰（家庭や地域社会への情報発信）生徒 82(6)<81(7)>保護者 90(5)<90(4)> ①「PTA だより」の項目変更はなかったが、校内の情報をできるだけ多く掲載して内容の充実を図った。 ①新しい取り組みとして PTA 総会時に、授業公開を実施した。また、研修旅行を 3 年ぶりに実施した。 ②中学校訪問は 7 件から申込があった。通知だけでなく、電話連絡も取り入れ PR に努めた。次年度につながる反省も得られた。 ③定期的な更新を行うことができた。
⑦学校関係者評価	・地域社会の一員としてもごみの減量、環境美化への関心の高い人材であるべきである。 ・校内の美化はまだまだ推進できる余地がある。生徒の美意識を醸成する指導が望まれる。	・PTA 総会時の授業公開は継続することで、総会への参加者が増えていくことが期待できる素晴らしい取り組みである。 ・HP だけでなく SNS での発信を取り入れて中学生とその保護者への露出を増やすことを考えても良いのではないだろうか。
⑧次年度への課題	・適切な清掃分担区割り振り、全員清掃を常態化するための意識改革が必要である。 ・環境美化委員が更に積極的に活動し、ゴミの分別や古紙回収の呼びかけ等を実施すべきである。	・「PTA だよりの発行」「HP の更新」は定期的の実施できたが、各部署によって頻度にばらつきがあるため、係を中心に、定期的・積極的に職員に呼びかけるなど、組織的な対応をする。 ・中学校訪問は、中学校や中学生のニーズも含めて在り方を検討する。

①重点目標	ⅱ 国際社会で活躍できる有為な人材の育成 【SSH】	
②重点課題	13 課題研究指導方法の確立	
③現状	・定着してきた「一人一研究」と「ゼミ活動」を効果的に組み合わせ、課題研究を進める形を再整理し、新たに 3 年間の栃高探究スタイルとして探究活動を深める流れを確立していく必要がある。 ・見直しを進めてきた課題研究の指導法と、これまでの成果を普及発信していくことが求められている。	
④達成目標 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①課題研究の軸である一人一研究とゼミ活動を組み合わせ、栃高探究スタイルとしての年間計画を立て、その計画の実施率 100%を目指す。 課. 情. 考. 発. 展	A
	②課題研究における探究プロセス修得の質的向上を図り、学会・コンテスト等への参加件数を増やす。 発. 展. 考	B
	③課題研究に関わる指導法や教材を整理し、外部に向けて取り組みの成果を発信する。 基. 展	B
⑤具体的な取り組み	①これまでの指導計画・内容を整理・改善させながら、1 年次前期「課題研究ケーススタディ」、後期～2 年次前期「一人一研究」「ダイアログゼミ」、後期「コネクトゼミ」という形で実施する。 ①一人一台端末やその他の情報機器を効果的に活用していく。 ②SS 情報や課題研究に関する講座等での学びを、課題研究の進捗に合わせて適切に取り入れていく。 ②外部発表の機会を広く周知し、積極的参加を促す。 ③課題研究に関する講座や授業研究会を県内外の教員に向けて広く公開し、そこでの協議を通じて指導方法の改善・見直しを図る。 ③HP を通じて、本校独自教材を紹介し、普及につなげる。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し、() は 5 わから ないの割合表す < >…昨年度データ	①SSH 第Ⅲ期の新しいスタイルの課題研究を実施した。生徒の実態に合わせてより良い授業内容を目指した結果、計画から一部変更となった。変更は効果的にはたいたと考える。 ①一人一台端末をゼミ活動の中で活用できた。（資料・議論の共有） ②SS 情報と課題研究の担当者が毎週連携を密にとり、2 つの授業を連動させた授業が実施できた。一方で課題研究に関する講座や SS 情報との連携に課題がある。 ②課題研究Ⅱの作品から日本学生科学賞栃木大会への出展が 3 件（昨年度 0 件）あった。（最優秀賞 1 件、優秀賞 1 件、優良賞 1 件と受賞） ③課題研究基礎技能講座の公開に 13 名（昨年度 18 名）、授業研究会へ 44 名（昨年度 49 名）の参加者があった。昨年と同程度の公開が行えた。授業研究会では全体会も実施できた。 ③HP 上での公開は実現していないが、公開講座と授業研究会参加者へは、一部開発した成果を公開し共有することができた。	
⑦学校関係者評価	・学会での発表など、外に向けた活動も盛んになってきている。次年度はさらに多くの生徒が学会などに参加することを期待する。 ・課題研究という裾野の部分と SSH クラブというトップレベルの研究活動をより高次元で両立することに期待する。	
⑧次年度への課題	・栃高探究スタイルの取組改善と 3 年次生の課題研究Ⅲの構築に励む。 ・探究プロセスの質向上では、データの取り扱いについてさらに指導内容の改善を図りたい。 ・海外研修等、国際性育成に向けた取り組みをさらに充実させる。	